

## 平成30年度 四ツ葉園事業報告

### 1 全般的事項

将来の農福連携の可能性の発見と利用者と職員が一緒に四ツ葉園の自然にふれあい、共通の活動を通して心の充足感を感じられるように支援を行いました。

### 2 各事業実施状況

#### (1) 施設入所支援

##### ①利用者支援

・個別支援計画に基づき、利用者と職員が共通の活動に取り組みました。ベランダなどで花や野菜の栽培、買い物や墓参りなどを行う外出を実施しました。花や野菜栽培では、失敗することもありましたが、皆に育てた花を称賛してもらい、外出を通して社会体験や自己選択を行う機会を設け、意欲的な要望が寄せられることもあり、効果が感じられました。

##### ②安全・安心な暮らし

・リスクマネジメント研修を受講し、支援課会議にて復命講習を行い、防止策を周知する速さに課題があることを学び実践に取り組みましたが、効果的な改善には至っていません。ひやりはっと事案の総数(97件)を減少(前年度比-38%)することができましたが、繰り返されている事案については、本人の障害特性、行動特性、事故発生状況、支援者の業務内容、配置等、継続的な検証に努め、本人が主体と感じられ、安心できる生活の提供が必要だと思われまます。

#### (2) 生活介護

##### 日中活動

##### ①作業グループ

・しいたけの原木栽培は3年目になりました。利用者自ら意欲的に駒菌の接種を行う姿が見受けられ、やりがいや自信を持って取り組むことができました。また、収穫した生しいたけを「工房よつば」と連携して店舗販売へ搬入するとともに、一緒に干しいたけ作りに取り組むなど、法人事業所へ食品加工品の活性化に協力できました。

##### ②療育グループ

・運動メニューの活性を目標に取り組みました。滑川医療福祉専門学校から作業療法士を招き(年6回)、通常の活動に、筋力・筋を刺激するなど、普段使わない部位の増進に取り組みました。また、職員は、メニューの考案以外にも、利用者の活動に対する意欲度調査を実施し、支援の方法に役立てました。

### 3 共通支援事項

#### (1) 健康管理・給食

・インフルエンザ以外の感染症に罹患するケースがあり、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎など様々な感染症の早期回復に取り組みました。罹患者が10名を超えた場合は、

富山県中部厚生センターと連携を取りながら、効果的なアドバイスを受け、早期回復に努めました。

(2) 地域交流・ボランティア

・納涼祭や園祭では、上市町社会福祉協議会を通してボランティア団体の協力を得ました。また、上市町のボランティアスクール（小中高生）では利用者、職員が継続して参加しました、また、地域や町のイベントに参加、ステージ発表するなど、様々な団体・人とのふれあい、交流を深めました。

・学生ボランティアの募集に力を入れました。4学校に募集を働きかけ、納涼祭や園祭でのボランティア活動の場を提供し、将来の人材確保に取り組みました。

(3) 職員研修・人材育成

・自主的に介護福祉士3名、社会福祉士1名、音楽療法士2名が資格を取得しました。法人の助成制度を活用し、キャリアアップすることに結びつきました。

・強度行動障害研修（基礎・実践）に受講した職員を中心に、行動障害への理解と支援方法について小グループで学ぶ機会を月1回実施しました。職員全体が飛躍的に知識や技術の向上には至っていませんが、基礎知識を身につけることのできる体制作りが必要です。

#### 4 今後の課題

(1) 加齢、高齢者の日中活動支援

・加齢、高齢者を対象として、介護方法・予防を含め、運動機能訓練について効果や目的、方法について学び、充実したメニューの提供に取り組む必要があります。

(2) 人材の確保と定着

・男性利用者の増加に伴い、男性職員の人材確保が望まれます。

・新年度に、新規採用職員が5名配属されたことから、OJT（担当職員を中心に職場内研修）を中心に、教育と新しい環境への戸惑いなどに傾聴し、安心して職場に定着できるような関係づくりが求められます。

## 平成30年度 新川会地域生活相談室事業報告

### 1 全般的事項

地域で暮らしている障害者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行った。

### 2 計画相談

計画相談支援	407件	(成人 294件	児童 113件)	前年度349件
モニタリング	232件	(成人 202件	児童 30件)	前年度 72件

- ① サービス等利用計画の作成の更新（新規）の時期（3月）に集中、そのため半年後に行うモニタリングの時期が9月に集中するため、市町村連絡会にて、とりあえず児童については誕生日での更新を31年度から進めていくことになる。
- ② 滑川・中新川圏域に相談支援事業所が2ヶ所しかないため、特に障害児相談は集中しやすく、発達障害児の放課後等デイサービス利用に係る相談が増えている。事業所数が限られるためサービス調整を行っている。また、相談支援事業所を増やしてほしいことを、滑川・中新川障害者地域自立支援協議会に上申する。
- ③ 30年度から一人の相談支援専門員の抱える担当件数が設定され、またモニタリング実施標準期間の見直しによりモニタリング頻度が高まった。そのため、相談支援専門員の担当件数を計画的に分担して行った。

### 3 一般相談

- ① 家庭での問題行動がエスカレートし対応困難なケース、保護者の入院や認知症の発症等家庭状況の変化により問題が発生したケース等、緊急的に介入せざるを得ないケースが増えている。
- ② 生活環境が不衛生等であったり修理が必要な場合、相談室で対応したり、業者への取り次ぎを行った。
- ③ 介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。

### 4 障害児相談

- ① 保育所入所前の子育てサークル等から依頼を受け、ミュージック・ケアを実施(4カ所7回)
- ② 「星の子サークル」(立山町)のサークル活動を支援(習字、絵画、トランポリン、クリスマス会)  
「親子療育キャンプ」は日程があわず、実施できなかった。

## 5 その他

### ① 権利擁護

- ・成年後見制度の利用に係る相談やすでに成年後見制度を利用しているケースは、定期的に後見人に報告や情報交換を行った。
- ・障害年金等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

### ② 地域ネットワークの構築

- ・障害者地域自立支援協議会への参画

「滑川・中新川地域障害者自立支援協議会」の各部会活動において、困難事例の問題解決のための検討を行い地域課題の抽出、共有をした。そのなかで、地域で暮らしている障害者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めた。

- ・地域交流と社会啓発

地域の障害者の交流活動やイベントに参画し、障害者への理解を促進する啓発活動に協力した。

### ③ 富山県自立支援協議会相談部会「研修ワーキンググループ」への参加協力

- ・相談支援体制の整備と人材育成のための相談支援従事者研修において、ワーキンググループの構成員として参加し、相談支援に携わる者のネットワークの構築に努めた。

平成30年度 新川会グループホーム事業報告

1 利用者状況 (平成31年3月31日現在)

	定員	現員		就労	就労継続 支援 A	就労継続 支援 B	その他	
		男性	女性					
つつみだにの家	9		9			※7	★2	※工房よつば ★富山型デイ
第2つつみだにの家	7	7				※6	★1	※工房よつば ★富山型デイ
かわはらだの家	7	6			▲2	■2 ※2		▲プレジャーワークA型 ■プレジャーワークB型 ※さつき苑
まえざわの家	7	5		2		※2 ●1		※雷鳥苑 ●わくわくファームきらり
計	30		27	2	2	20	3	

2 支援の体制

4棟のグループホームを利用者の現在の生活、社会生活歴及び生活能力に応じて2つのタイプに区分して支援を行ってきた。

① つつみだにの家では、休日の日中に生活支援員（バックアップ施設職員）を配置して、第2つつみだにの家の利用者とともに、一定の声かけや見守り（昼食、余暇活動）を行い、必要な支援を継続した。

なお、かわはらだの家の利用者のうち1名は、無届外出の傾向（H30年度8回）があるため、休日の日中はつつみだにの家で支援を行った。

地域行事（住民運動会、マラソン大会、エリア会）への参加も行った。

② 高齢者3名はH30年4月より、日中活動の場を「工房よつば」から富山型デイサービス「むらのなか」に移行し、これまでの仕事の間とは違う年齢にあった過ごし方を開始した。入浴、日中活動に加え医療的な配慮のある見守り支援を受け、3名ともよく馴染んでいる。

③ まえざわの家、かわはらだの家では、日常生活（休日を含む）は本人の選択（外出、昼食等）に委ねており、散髪や日用品の買い物、友人との外出を行っている。

④ グループホーム全体行事として、新年会を行い、利用者、世話人、職員が参加し親睦を深めた。

⑤ 世話人を対象とした外部研修に2名の世話人が参加した。

### 3 成果と課題

#### ① 共同生活と自己管理

- ・当番や係を明示しホームでの役割と責任感をもてるよう促した。生活の主体であるという意識には個人差があり、一人ひとりに応じて声かけや励ましが必要だった。
- ・居室の管理（整理整頓・清潔保持等）  
適宜声かけや確認を本人と一緒にやり、生活の主体者である意識を育ててきた。
- ・まえざわの家、かわはらだの家では、休日の過ごし方や金銭管理について、アドバイスを受けながらも、各自それぞれ友人と過ごしたり、地域のイベントに参加したりと休日を楽しみ、毎月の小遣いも毎月末に職員と小遣い帳を整理しながら使い方を考えてきた。店舗によってレシートの記載方法がまちまちで記入間違いもあるが、誤差は少なくなってきた。

#### ② つつみだに・第2つつみだにの家における休日・余暇の支援

- ・晴れた日は家庭菜園、除草、散策（運動公園、フライングディスクの練習）に誘う。ただし散策では若年者と高齢者でのペースの違いが顕著になってきて、安全面を考慮すると支援者ひとりでは難しい面が出てきている。
- ・余暇時間は個人の趣味（読書、編み物、写経）の活動となるが、趣味がない人もおり、興味、関心を引き出す働きかけが必要である。
- ・計画的に外出の機会の設定（地域イベント参加・季節の会食・散髪やショッピング等）をした。散髪やショッピングは各自、年に6回程度のため、地域生活としては回数を増やし、より社会性を広げることが必要。
- ・年齢への配慮、興味関心を引き出す取組み、個別の余暇支援への取組みが今後より必要。

### 4 管理・運営状況（4棟）

#### ① 定期打合せ（4棟毎に月末開催）

- ・利用者一人ひとりの自立の程度や状況について、世話人さんとの話し合いにより、一貫した関わりを続けるように努めた。また、より具体的に係や当番のやり方を明示するよう努めた。

#### ② 健康と安全

- ・定期検診 法人内の就労継続支援Bの利用者は、通所の事業所で受診及び予防接種実施。その他は、就労先事業所で受診し、予防接種は任意で受けた。
- ・風邪等の突発的な受診、病状や経過の把握等、対応に努めた。
- ・皮膚疾患、歯科治療もあり、通院回数は増えている。かわはらだの家の利用者が以前からの疾病のため病気療養中であったが、死去に伴い5月23日に利用終了となる。
- ・避難訓練の実施（年2回）

#### ③ 給食・栄養管理

- ・業務日誌の献立について、栄養士から助言を受けた。

#### ④ 家族との連携

・家族との関係が希薄だったり、事情を抱えるケースもあり、家族との連携は取りづらい点もあるが、本人が家族を思う気持ちを汲みながらの支援にあたった。

## 5 今後の課題

- ① 共同生活の中で、一人ひとりが生活の主体者としての意識、自覚を持ち、意欲や自信を育むことができるよう支援していく。
  - ・つつみだに、第2つつみだにでは、土日の昼食の食材の買い出しに当番制で出かけ、生活への意識を高めていく。
  - ・グループホームへの訪問回数をふやし、利用者と向き合う時間を大切にしていく。
  - ・加齢に伴う健康への配慮、生活スタイルの変化を支援していく。
- ② 共生社会の実現に向け地域での生活を意識した支援を行い、利用者の生活を支える世話人との連携に努める。
  - ・各町に災害時要援護者申請をすると共に、それをきっかけとしコミュニケーションを深めていく。
  - ・つつみだに、第2つつみだにでは、月に1回、地域の絵画教室に出掛ける。
  - ・地元のスポーツ大会（上市町駅伝大会）へ参加する。
- ③ 利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービス提供に努める。
  - ・世話人の専門性が高まるよう、普段から支援について話し合ったり、外部研修への参加を勧めていく。
  - ・支援者は常に自己研鑽に努め、お互いが組織の一員であることを自覚し、連携して支援していく。
- ④ サテライト型グループホーム、または自立生活援助サービスの検討をしていく。  
(グループホームからアパートや公営住宅への移行希望の利用者に対し、見守り体制を維持しながら、本人の望む生活に近づけるよう支援していきたい)
- ⑤ 令和2年4月に、かわはらだの家に新規利用希望者があり、スムーズに利用開始できるように、就業体験等を通してバックアップしていく。

## 平成30年度 雷鳥苑事業報告

### 1 全般的事項

地域で生活する知的障がい者に、日中活動とふれあいの場を提供するとともに、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育めるように支援を行いました。

### 2 各事業の実施状況（経過）

#### （1）生活介護

- ・ペットボトルの分別とプレス（立山町受託）F社（ダンボール組み立て）を主として活動に取り組みました。生活介護利用者が生産活動に取り組むことができ、冬季には、15名全員に賞与を支給することができました。
- ・ミュージックケアやおやつ作りは毎月1回継続的に取り組むことができ、利用者が主体的に準備や片付けに参加する姿が見られるようになりました。
- ・F社（ダンボール組み立て）の受託作業では、違う種類の混入が何度かあり、搬入方法や作業工程、参加人数の見直しが必要となりました。

#### （2）就労継続支援B型

- ・A社（野菜加工）及びH社（パンフレットの差し込み）の受託作業を中心に畑作活動にも力を入れて行いました。  
A社に関しては、昨年度受注量を700kgまで増やしていましたが、利用者の負担が大きくみられていたため、600kgに減量した。そのことで畑作や加工品に取り組む時間をふやすことができた。
- ・畑作業に関しては、大蒜を中心に作付けを行い、ニンニクは1,000個栽培し、昨年度より取り組んでいる黒ニンニクとして加工、販売、またガーリックパウダーとして試作、販売をすることができました。

#### （3）その他

##### ①地域交流

- ・夏まつりや雷鳥苑祭といった行事には地域のボランティア団体（2団体・52名）や学生ボランティア（2名）の参加協力を得ることができた。
- ・立山町社会福祉協議会を始め関係団体の事業やイベントに参加し、交流を持つことができた。

##### ②保護者との連携

- ・年3回の懇談会を行い、本人や家族の思いを確認し個別支援計画に反映させました。  
欠席が長く続いた方については、定期的な連絡や自宅への訪問を実施し登苑につながるよう働きかけを行った。

##### ③職員研修

- ・職員のスキル向上及びサービスの質の向上を図るため法人内研修（キャリアパス対応）や福祉協会等の研修会に参加し自己研鑽に努めました。

##### ④農福連携事業



- ・法人全体の取り組みとして、毎週水曜日に各施設から雷鳥苑の畑に職員、利用者が集まりラベンダー栽培を行った。330本の苗植えを行い、花1kg(乾燥後)を収穫することができた。

### 3 今後の課題

#### (1) 農福連携事業

- ・法人全体でのラベンダー栽培に継続して取り組み、農業に栽培面積を増やしてラベンダーの収穫量を増やす。また農業に関わる職員・利用者を増やし、農業への理解、楽しさ喜びを分かち合えるようにスキルアップを目指す。

#### (2) 自主製品づくり

- ・ニンニクの栽培数を増やしていく。
- ・ニンニクの保存方法や加工工程を確立し、定期的な生産・販売につなげる。

## 平成30年度 さつき苑事業報告

### 1 全般的事項

心身ともに穏やかな1日を過ごし、利用者が日々仕事や訓練に楽しく元気に取り組み充実した1日を過ごし意欲と自信を培うよう支援を行った。

### 2. 各事業の実施状況

#### (1) 生活介護

##### ①活動状況 励行

###### 機能訓練

- ・アイロンビーズを使用して季節やテーマに合わせた製品を作った。

###### 生産活動

- ・アルミ缶のリサイクル活動は人数や時間を制限し継続して取り組んだ。
- ・木工作品ではスタンプを押す工程を増やし、コースターやキーホルダー等の新商品につなげた。
- ・自主製品としてアクリルたわしに取り組み、苑祭で販売へとつなげた。

##### ②活動の評価（成果）等

- ・国会議事堂での木工コースター販売は継続して行い120セットを販売し、その際にでる木くずを利用し「ひのきの香り」として販売し130セットの売り上げがあった。

##### ③今後（次年度）の課題

- ・自閉的傾向の利用者の他害が続いたため、男子職員の配置や服薬調整等、環境面も考慮した支援の統一が必要。
- ・引き続き、糸鋸作業の技術向上につなげ、切った後の磨きまで一連の工程を多くの利用者が行えるようにする。
- ・年齢や能力を配慮し、一人ひとりにあわせた運動量を確保し健康な体をつくる。

#### (2) 就労継続支援B型

##### ①活動状況

###### 受託作業

- ・R社（チューブ取り付け）の作業を9月以降休止し、T社の作業に集中して取り組んだ。
- ・M社（野菜等の1次加工）より、魚津産リンゴの加工依頼があり約700Kgのリンゴをカットし納入した。

###### 自主製品

- ・よもぎや当帰葉、ラベンダーの入浴雑貨の制作に取り組んだ。
- ・農福連携プロジェクトの参加に伴い、苑の畑作業に遅れがみられた。

##### ②活動の評価

- ・T社の作業には臨時職員も検査等に加わってもらうことで、全体の日課や職員配

置に余裕がもてるようになった。

③今後（次年度）の課題

- ・入浴雑貨のラベンダーやよもぎの安定した量を確保する。
- ・野菜等の1次加工に参加できる利用者を増やす。

(3) 共通領域と内容

①身辺生活の自立と支援

- ・当番活動を通してさまざまな場面で自分の思いを伝え、自主的に行動できるよう配慮する。
- ・活動前の朝礼では意識的に身だしなみを整えられるよう働きかけた。

②健康管理と健康指導

- ・健康相談を通して、家庭での血圧測定の必要性や食事量の調整など家庭への協力求めた。
- ・手洗いの励行に努め、風邪等の症状がみられた場合にはマスクの着用を促し、感染拡大とまらないよう努めた。

③食事・給食

- ・四ツ葉園より給食を運搬し、25名が給食を利用した。
- ・偏食が多い利用者、栄養補助食品や食事量の確認が必要な利用者には、家族と相談し個別の対応を行った。
- ・嚥下の状態や口腔内に考慮したキザミの形にし、よく噛んで食べるよう支援した。

④地域行事への参加

- ・地域の行事（ふれあいウォーキングやふれあいフェスティバル）や公民館イベントに積極的に参加し、製品の販売やポップコーン等の販売を行った。

⑤安全な環境づくり

- ・建物施設内外の点検を定期的に行い、また周辺環境整備に努めた。
- ・消防計画のもと通報、避難訓練と災害訓練を実施した（5月、11月）

⑥家族との連携

- ・懇談会や連絡帳、送迎時に保護者と話し合う場面を作り、家族や本人の思いに耳を傾け支援方法の確認と統一に努めた。
- ・毎月の便り（さつき苑たより）を通して施設の情報提供を行った。

⑦サービスの質の向上

職員研修

強度行動障害従事者研修への参加

東海北陸SEL P協会

中堅研修への参加

法人内での研修

## 平成30年度 つつじ苑事業報告

### 1 全般的事項

利用者の障害の状況、能力、興味や本人のおもいに寄り添いながら活動場面の提供に努め楽しく、充実した日々が過ごせるよう支援した。

### 2 各事業の実施状況

#### (1)生活介護

##### ①活動状況

- 創作的活動 古新聞や紙粘土を活用し置物づくり（だるま、雛人形）を行った。成果として制作の過程において一人ひとり役割を持ってもらい責任をもってやり遂げることができた。
- 生産活動 手芸品作りの工程の一過程を担い、製品を完成させ販売を行った  
畑作業でじゃがいもやさつまいもを栽培し調理実習の材料やつつじ苑祭においてやきいもにして無料配布した。  
新聞販売所より付録の袋詰めをして収入を得た。
- 機能訓練 毎日の日課の中で天候が良い時は、行田公園内でのウォーキング、天候が良くない日は、社会福祉センター2階を使用しての軽運動を行った。

##### ②活動の成果

本人のもっている力や興味のあることを引き出し楽しく活動ができた。  
付録の袋詰めを行い、売り上げで慰労会（食事会）を行った。

##### ③今後の課題

一部の利用者だけではなく全員が何らかの形で参加し楽しめるメニューを行えるようにする。引き続き一人ひとりが参加できる時間に限らず、楽しかったと思える活動メニューを行っていく。

#### (2)就労継続支援B型

##### ①活動状況

Y社(ナットさし)、T社(製品のランナー折り)、S社(タオル伸ばし)、F社(海産物商品のパッケージシール貼り)などの受託作業と滑川市からの地下道清掃作業を中心に行った。自主製品として、機織りのコースター、入浴雑貨(しゅわしゅわバスタイム 250g)を製作し販売した。

女性利用者から一般就労の希望があり関係機関と連携してチャレンジトレーニング、トライアル雇用を実施した。

##### ②活動の成果

S社のタオルの受注量の増量について依頼したところ、週に12カートから19カートに増え作業にかかわる時間が増えた。

チャレンジトレーニングからトライアル雇用を経てH31.2に1名一般就労に繋がっ

た。

### ③今後の課題

タオルの仕事量（カート数）は増量したが、請け負っているタオル枚数が増えておらず、売り上げは、さほど伸びていないのでカート数を最大限まで増やしてもらうようS社に依頼する。

単価の高い受託作業の開拓。

ブルーベリー及び苗木の栽培。

新年度にも一般就労を希望している方がおられ障害者生活就業支援センターやハローワークなどの関係機関と連携して行っていく。

### (3) 共通事項

#### ①ブルーベリー栽培

前年度の4月よりブルーベリーの苗木を30本購入し、ブルーベリー栽培を専門に行っている方より指導を受けながら栽培方法を教わった。

#### ②商品販売

利用者がつつじ苑祭、滑川市福祉大会、障害者週間での販売に携わった。

前年度よりどんどん焼き販売を本格的に行い、新川会各事業所のイベントに利用者とともに参加し販売を行った。

#### ③交通安全啓発活動

12月22日ショッピングセンターエールにおいて交通安全啓発活動に参加した。

1月5日には、滑川警察署署長より感謝状を受けた。

## 平成30年度 工房よつば事業報告

### 1 全般的事項

働く喜びと自立への意欲につながるよう、生産活動及び自主製品の製作を通して支援を行った。

### 2 事業の実施状況

就労継続支援B型 定員20名、現員14名

#### (1) 活動状況

##### ①生産活動

##### ア)受託作業

- ・Te社のバリ取り、H社の宿泊アメニティの袋詰めを継続して取り組んだ。
- ・Te社の受託作業量が8月から減量し、回復の見通しが不明確なため12月からH社の受託作業を行った。丁寧さを認められ、2月より定期的に粗品のごみ袋セットを行う事になった。
- ・高速道路SAの花の植え込み作業(1回)に参加した。
- ・2銀行のカレンダー巻き(年末)を行った。
- ・上市町のM社とTi社から依頼をうけ、春季限定でよもぎの新芽採集を実施した。
- ・P社から桜の花びら採集の依頼を受け実施した。

##### イ)自主製品

- ・「贅沢なよもぎ風呂」の製作。
- ・野生型エノキタケの栽培はS農園の指導の下、敷地内で栽培。2月の劔岳雪のフェスティバルでの販売を目標にしていたが間に合わず、Ti社での店舗や即売での販売を行った。
- ・冬期間のよもぎ作業の減少期間に手芸品の製作を行い販売を行った。

##### ②活動の成果等

- ・ゲートカットは、T社の生産の減少を受け、仕事量が1/2から1/3程度に落ち込んだ。受け入れ製品の品質から、違う素材の製品を受け入れる際にはその都度計画的に作業場の清掃を行い、時間の無駄なく作業を行えるようにした。
- ・「贅沢なよもぎ風呂」の販売個数は昨年度より多くすることが出来た。理由として、乾燥よもぎの納品を若干減量しその分入浴製品に回せたこと、気温や天候により比較的使用できる葉が多く採集できたことが理由と思われる。今年度も好評を得て完売となった。

【30年度売上 237,932円 販売個数 3個入約 821個 1個単位 40個】

- ・よもぎ採集を行っている為、よもぎの受注があり、新芽 9.28kg 9,280円・乾燥よもぎ 7kg 31,500円・茎、葉 126.5kg 12,650円で納品を行った。

- ・野生型エノキダケは30個の菌床を購入し栽培を行い、劔岳雪のフェスティバルには間に合わなかったが、その後指導を受けながら生育を行い、19個のエノキダケの販売や乾燥製品に仕上げた。
- ・30年度目標にしていた女性向けの製品の製作を行い、商品化につなげ販売を行うことが出来た。
- ・農福連携事業のラベンダー畑作業に年間通して参加することができ、利用者の活動の幅を広げ、農作業体験を通じ作業の手順や道具の扱いなど体験することができた。

《今後の目標課題》

- ・安定した収入を行えるよう、受託作業の精査を継続して行う。
- ・自主製品の新規商品の試作を行い、品質の安定と一定量を生産できるようにする。
- ・花苗の育成を行い、販売できる品質への取り組みを行う。
- ・法人内の農福連携事業に継続的に参加し、物作りの流れを理解し体験できるよう取り組む。

### 3 共通的内容

#### (1) 身近生活

- ・通所時の身だしなみの確認、手洗いや作業後の道具の洗浄を利用者とともに行うことで、清潔に関して意識できるよう働きかけた。そのため、利用者の意識付けになり、自主的な発言がみられるようになった。

#### (2) 健康管理

- ・健康増進のため、太極拳教室を月に1回実施した。
- ・毎朝の検温とバイタルチェックを継続し、健康状態の把握と管理に努めた。感染症の流行時には手洗いとうがいを励行した。

#### (3) 食事・給食

- ・給食サービスを通して、配膳や片づけ、食事のマナーや栄養について話し合う機会を設けた。食事の残飯が減り、片付け等は利用者同士が声を掛け合い注意を促したり、助け合う姿が見られた。

#### (4) 安全な環境

- ・毎日の作業後は、作業環境の安全点検を職員が行い、備品の配置に留意した。
- ・日々の清掃の中で、配置や危険への注意を促すことで意識付けができた。

#### (5) 社会生活支援

- ・行事前には自治会を実施し、意見を出し話し合える時間を設けたことで、行事への積極性や満足感が得られたとの意見が多かった。
- ・遠足を実施。氷見方面へ出かけ、細工かまぼこ作りを体験した。かまぼこは長期保存できたためお盆帰省時に持ち帰り家族で食べることになった。
- ・社会生活体験(11月)は上市駅から電車移動で黒部市まで行き、黒部市役所でくろべ公房の運営する食堂で食事を行いながら仕事を見学し、魚津まで移動後

アロマスプレー作りを体験した。各々自分で香りを選び調合し製作し、仕事前に使用することで仕事への意欲向上へと繋がった。

- ・即売に参加し、自主製品を販売する機会を持つことで生産意欲の向上と地域住民との触れ合いを通し働く喜びを感じる機会となった。

(6) 地域交流

- ・地域ふれあい交流会（滑川市東福寺自然公園）に参加して体を動かしたり、ゲームで協力し合いチーム力を高めたり、バーベキューでは他施設との交流を深めた。

(7) 家族との連携

- ・懇談会や行事の際、保護者の思いを聞きとり、個別支援計画の作成に反映させることができた。
- ・毎月広報紙を発信し、活動の状況を保護者に伝えることができた。